

滋賀県原子力防災訓練（住民避難訓練）の結果について

1 目的

- ・ 屋内退避、一時移転、スクリーニングおよび原子力災害医療に係る手順の確認と検証
- ・ 県、関係市および防災関係機関の原子力災害対策に係る能力の向上
- ・ 地域住民の原子力災害対策に係る意識・理解の向上
- ・ 国と連携した住民避難の実施と検証

2 実施日時

令和4年11月6日(日) 8時00分から12時30分まで

3 主催

滋賀県、長浜市、高島市

4 参加・協力機関

参加住民数 : 247 人(長浜会場:62 人、高島会場:185 人)

参加機関数 : 35 機関 435 人(長浜会場:233 人、高島会場:180 人、大津会場 22 人)

参加車両等 : 26 台(長浜会場:11 台、高島会場:15 台)

内閣府、原子力規制庁、陸上自衛隊第3戦車大隊、航空自衛隊第12高射隊、自衛隊滋賀地方協力本部、(公社)滋賀県診療放射線技師会、(公社)京都府放射線技師会、(公社)大阪府診療放射線技師会、(公社)兵庫県放射線技師会、(公社)奈良県診療放射線技師会、(一社)和歌山県放射線技師会、湖北地域消防本部、高島市消防本部、長浜赤十字病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院、近江八幡市立総合医療センター、市立長浜病院、長浜市立湖北病院、高島市民病院、広島大学放射線災害医療総合支援センター、(一社)湖北薬剤師会、高島市薬剤師会、(一社)滋賀県バス協会、(一社)滋賀県トラック協会、滋賀県倉庫協会、(社福)高島市社会福祉協議会、関西電力(株)、中部電力(株)、日本原子力発電(株)、(国研)日本原子力研究開発機構、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)ドコモビジネスソリューションズ、大津市、滋賀県警察本部、長浜警察署、木之本警察署、高島警察署

5 訓練想定

- ・ 美浜町で震度6弱の地震が発生したことにより警戒事態が発生。運転中であった関西電力(株)美浜発電所3号機が自動停止し、外部電源が喪失。その後原子炉冷却材の漏えいにより、施設敷地緊急事態に進展。さらに作動した非常用炉心冷却装置の故障により全面緊急事態に至り、炉心損傷により放射性物質が放出。
- ・ その後、長浜市内、高島市内の UPZ 内の一部地域において、空間放射線量率 $20 \mu\text{Sv/h}$ を継続して観測したため、長浜市内の伊香具・木之本・高時・富永・高月・古保利・七郷学区、高島市内の今津東小学校区に一時移転指示

6 主な訓練内容

(1) 屋内退避訓練

防災行政無線、メール配信サービス（安全・安心メール、リアルタイム高島）、LINE、消防団等による住民等への屋内退避指示（※新型コロナウイルス感染症流行下を想定した屋内退避の注意点についても広報）

(2) 住民避難訓練

- ・ 防災行政無線、メール配信サービス、LINE、消防団等による住民への一時移転指示
- ・ 一時集合場所（長浜会場：高月小学校、高島会場：高島高等学校）の設置・運営（写真①～③）
 - 避難対象住民の受付、安定ヨウ素剤の服用説明など
- ・ バスによる住民避難（長浜会場：高月小学校）（写真④）
- ・ スクリーニング会場（長浜会場：湖北体育館、高島会場：高島 B&G 海洋センター）の設置・運営（写真⑤～⑫）
 - 住民、防災業務関係者、車両へのスクリーニングおよび除染の実施
 - 医療救護の実施
- ・ 広域避難の受入れ（大津会場：仰木の里市民センター）（写真⑬、⑭）

(3) 原子力災害医療訓練（写真⑮、⑯）

- ・ 消防救急車両による傷病者の搬送
- ・ 原子力災害拠点病院（長浜赤十字病院）および原子力災害医療協力機関（高島市民病院）における原子力災害医療の実施



写真① 一時集合場所（高島高等学校）
避難対象住民の一時集合場所への集合



写真② 一時集合場所（高島高等学校）
避難対象住民の受付



写真③ 一時集合場所（高月小学校）
安定ヨウ素剤の服用説明



写真④ 一時集合場所駐車場（高月小学校）
バスによる住民避難



写真⑤ 避難中継所（湖北体育館）
住民スクリーニング会場



写真⑥ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）
住民スクリーニング



写真⑥ 避難中継所（湖北体育館）
汚染者対応



写真⑥ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）
避難行動要支援者の避難訓練



写真⑦ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）
避難バス運転者の防護服脱衣所



写真⑧ 避難中継所（湖北体育館）
新型コロナウイルス自宅療養者対応



写真⑨ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）
救急搬送



写真⑩ 避難中継所（湖北体育館）
車両スクリーニング



写真⑪ 避難中継所（湖北体育館）
車両除染



写真⑫ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）
避難中継所運営本部



写真⑬ 避難所（仰木の里市民センター）
避難住民（高島市職員）の受入



写真⑭ 避難所（仰木の里市民センター）
一時帰宅者の汚染検査



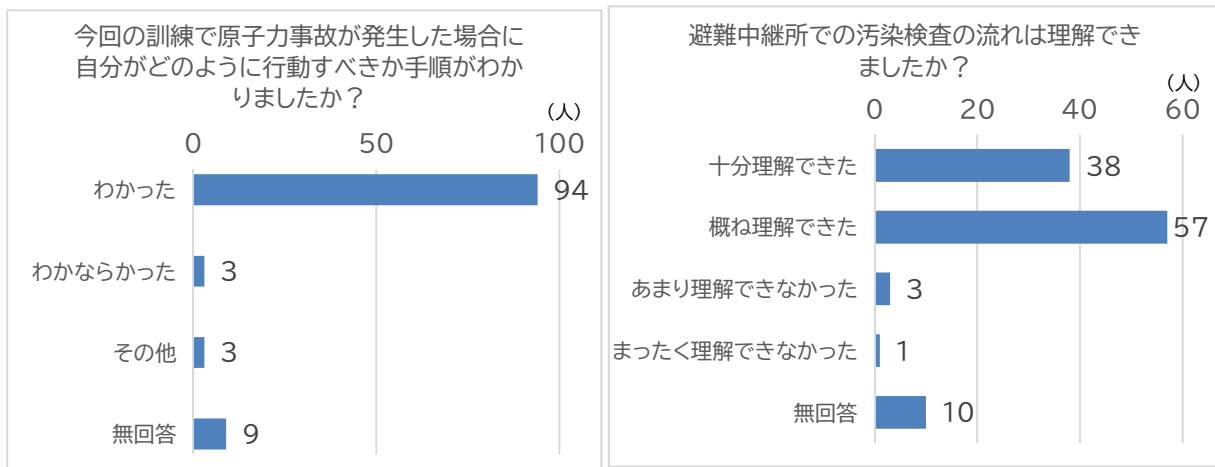
写真⑮ 原子力災害拠点病院（長浜赤十字病院）
原子力災害医療の実施



写真⑯ 原子力災害医療協力機関（高島市民病院）
原子力災害医療の実施

7 住民アンケート結果

長浜会場および高島会場の参加住民に対し、今回の原子力防災訓練について、アンケートを実施した。概ね、原子力災害時の行動手順や汚染検査の流れについて理解が得られたと考えられる。



8 主な成果と課題

(1) 成果

- ・ 住民参加の中で、屋内退避、一時移転、スクリーニングおよび原子力災害医療に係る手順の確認をすることができた。また、参加住民にも避難時の手順について理解いただけた。
- ・ 今年度は、初めて高島会場の避難中継所である高島 B&G 海洋センターで住民参加のスクリーニング訓練を実施することができた。
- ・ 高島会場で、避難行動要支援者本人が参加する避難訓練を行い、個別避難計画の検証をすることができた。
- ・ 県外に備蓄されている国の安定ヨウ素剤の受入れ、県外の放射線技師による応援や市域を越える避難といった実動における広域的な連携体制を確認できた。
- ・ トランシーバーやスマホアプリを用いた情報伝達を訓練・検証することができた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者へのスクリーニング方法を検証することができた。

(2) 課題

- ・ 一時集合場所（高島高等学校）敷地内に避難バスが乗り入れできないことから、近隣の今津支所からバスに乗車したが、想定よりも今津支所への移動に時間を要し、避難中継所到着時間が見込みよりも遅くなった。
- ・ バス待機場所（長浜市社会福祉協議会湖北支所）から避難中継所（湖北体育館）へバスが移動するタイミングを判断する者が曖昧になっていた。交通誘導班の役割として事前に周知しておく必要がある。
- ・ 避難中継所（高島 B&G 海洋センター）の運営本部をスクリーニング会場の隅に設置したため、会場の様子（スクリーニング状況）を把握しづらかった。今後は、会場全体を見渡せる位置への運営本部設置を検討する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の患者が到着したことが本部に伝わらず患者が長時間放置されることがあった。本部での情報は各班に広く周知する必要がある。
- ・ 今回初めて訓練に参加する要員も含まれ、会場の設営・運営方法を確認するための時間を要する場面などが見られたことから、今後も関係機関と連携し訓練を積み重ね、避難計画の実効性の維持・向上を図ることが重要。
- ・ 今回初めて避難所の運営・スクリーニングなどの受入訓練を実施したが、今後も訓練などを通じて受入側のノウハウ蓄積は重要。